

2020年・7～8月

夏のミスジ系幼虫たち

オオイチモンジからフタスジチョウ(図鑑p180～191)までのミスジ系の幼虫たちは、葉に産み付けられた卵から孵化するとただちに居場所を定めます。そして葉の中脈を食い残し、糞の塔を作ったり、切り取った葉をカーテンのようにぶら下げたりします。今年の夏に見られたそんな面白い幼虫たちの姿を集めてみました。

オオイチモンジ



マニアに人気のオオイチモンジ。本州では高地の河畔林のドロノキに幼虫はつくことが多いが、北海道では林道わきのヤマナラシの比較的小さな木に幼虫はついている。食痕を目当てに探してみました。

卵は葉の先端に産み付けられます。
2020・7・17(富良野市・永盛)



中脈を残し、その端部に糞をくっつけて、さらに食い残した葉をぶら下げていきます。

これは1齢幼虫。

2020・7・26(富良野市・永盛)





休息する位置はきまって中脈の中間部分。体色は枯れた中脈の色で体の表面はぶつぶつしていて糞がついたようにみえます。♀はまだ飛び回って卵を産んでいるようだが、孵化した幼虫はずんずん成長していきます。ただしこの時期に大半は天敵に食われて脱落してしまうようだ。これは2齢幼虫。

2020・7・26(富良野市・永盛)

カーテンをぶら下げて中脈で休息(?)する3齢幼虫。
ドロノキやヤマナラシは葉の枯れるのが早いのでそろそろ越冬用の巣を作りはじめます。
2020・8・10(当麻町・辻)



イチモンジ



イチモンジはオオイチモンジにくらべ一回り小さいし翅の色彩も地味で、さっぱり人気のないチョウだ。芦別市の林道のタニウツギにたくさんついている。図鑑の幼虫も主にここで撮影。今年も健在でした。



卵は葉の表面に産み付けられます。
この卵は産卵直後で卵のまわりに液体がついているのがわかります。
2020・8・17(芦別市・永盛)



オオイチモンジと同じように中脈を残し、その先端部に糞をくっつけていきます。これは1齢幼虫。
食樹はタニウツギ
2020・8・10(芦別市・永盛)

食われた跡

2齡幼虫

イチモンジの場合、食い残した葉を吐糸でからめていきます。糞もその中にくっついていて、なんだか汚いゴミのような塊になっています。

カーテンにしる、この塊にしる、どういう意味で作るのでしょうか？

静止するのは中脈の上が多いようです。

2020・8・19(芦別市・永盛)





コミスジ

コミスジからオオミスジまでは同じNeptis属になります。コミスジは普通種の部類です。観察は都市部の周辺でも可能です。今回はマメ科のエゾヤマハギで探しましたが、外来種のニセアカシアもよく利用します。

林縁のエゾヤマハギの葉先を探していくと中脈残しの食痕が見つかります。
2020・8・14(厚真町・辻)



吊り下げられたカーテン

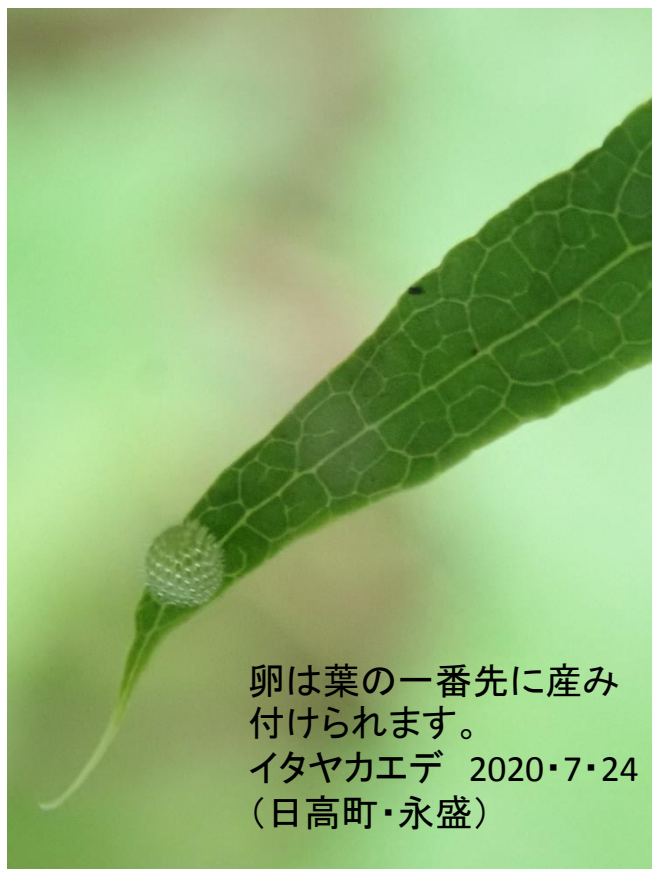
吊るされた枯葉のカーテンは
複雑な形に切り取られていま
す。本人も不思議な形をとり
中脈の上に静止しています。
これは2齢幼虫。
2020・8・14(厚真町・辻)





ミスジチョウ

溪流沿いに延びた林道の周りによく見られ、地面でよく吸水しています。食樹はカエデの仲間。林道を歩きながら目の高さにカエデの葉が見えたら葉の先を気にしていきます。



卵は葉の一番先に産み付けられます。
イタヤカエデ 2020・7・24
(日高町・永盛)



葉の先端の食痕は良く目立ちます
イタヤカエデ 2020・8・3(富良野市・永盛)

林道わきのオオミ時の葉に
いました。カーテンを吊るし葉の
最先端に静止します。
2020・8・14(日高町・辻)



葉の先端には、イチモンジの様な糞の塔は作りません。少しだけ食い
残しそこにのっかっています。これらは2齢幼虫かな？
不思議な越冬の様子はこれからまた見ていくことにしましょう。
2020・8・3(富良野市・永盛)

オオミスジ



オオミスジは道南のチョウ。図鑑でも再三取材に訪れた乙部町にある公園でまた観察しました。



これは梅の木に作られ始めた1歳の巣。カーテンを作り始めている。
2020・8・17(乙部町・辻)



カーテンを2枚をぶら下げている。先端部に休みときどき葉を食べに出かけていく。

2020・8・17(乙部町・辻)



枯れた中脈に止まっている幼虫。3齢幼虫の様だ。

越冬は巣をはなれ枝の分岐部でおこなうはず。これは次回のお楽しみ。

2020・8・17(乙部町・辻)



フタスジチョウ

フタスジチョウは身近なチョウだ。富良野の庭のユキヤナギにもよくつく。今回は苫小牧の低山地にたくさん生えているホザキシモツケの幼虫を撮影しました。

フタスジチョウの幼虫は葉の先端部に切れ込みを入れ、カールした葉の中に隠れてしまう。この巣を目当てに探すと次々見つかりました。

2020・8・14(苫小牧市・辻)





カールした葉は枯れており、吐糸で結び付けられている。少し開いてみると中に幼虫が隠れていました。これはまだ1齢のようだ。2齢になりそのままこの巣の中で越冬することになります。
2020・8・14(苫小牧市・辻)

おわり

次回はこの幼虫たちの越冬の様子を撮影する予定です。乞うご期待。

T, Nagamori & N, Tsuji